

派遣会社(リセント)倒産 約130人(OKI関係20数名)が賃金未払いで解雇

出勤したら、タイムカードがなくなっていました。

企業も
行政も
非情

悔しくて、くやしくて、俺たち「使い捨て」なんだ。
安心して、働ける環境がほしい。

沖電気の本庄・富岡地区には96年頃から200人を超える派遣従業員が働いていました。今、景気後退の影響で雇止め(解雇)が相次いでいます。リセント破産を3月2日に知らされ、相談を受けた沖電気の職場を明るくする会(OAK)は、雇用保険、社会保険の手続きや、賃金の未払いなどの「相談会」を弁護士などの協力で開催し、解雇者を励ました。

一人で悩まず
相談を



本庄工場前のKさん

リセント問題の相談会(3月11日)への参加を仲間呼びかけたKさん・は、出勤した朝に仲間とともに会社の倒産を知らされました。「どうして」と動揺する仲間たち。給与の差し押さえが不安に追い討ちをかけた。「一人で悩まず皆で解決したい」OAKの人たちの協力を得ながら解決の道を探ってきたKさんは、住居も失い同僚のSさん・とともに故郷の宮城県に帰り仕事を探します。埼玉を発つ前日も高崎労基署や社会保険事務所に出向きました。「会社の倒産や解雇は経験したくなかった。でも労基署や市役所などへ相談に行ったことや、人とのつながりが大事だ」ということを知りました。

「同居している両親にまだ話せないでいる」。G会社のYさん・は三月末までの契約でしたが二月末で解雇。契約の中途解除について相談した労基署で会社の倒産を知らされました。年金で暮らす両親に心配をかけまいと、今でも毎朝仕事をしていたときと同じように家を出ています。

両親に配慮して
今日も偽装出勤

相談会にも参加しました。「末端で苦しんでいる人の相談に乗ってくれ、人たちがいることに驚くとともに安心しました」と話します。何も知らされないままの会社倒産や契約の中途解除など、不満はたくさんあります。「でも明日どうするかが一番の問題なんです。先は見えませんが」(記・大沢)

リセント倒産事件

人材派遣会社リセント(資本金1億3200万円・高崎市栄町、山内明男社長)が2月27日、本社のドアに「前橋地方裁判所高崎支部に破産手続き開始の手続に入る」という告示書を貼り出して破産手続きをはじめた。

上毛新聞は、山内社長は関連派遣会社メインフレームも経営して、01年には26億円売り上げをしていたが、

世界的な景気後退で自動車、電機関連の人員削減の影響で両社合計で約8億円の負債で業務を停止した。と報道した。

沖電気関係に派遣されていた労働者も、2月分の給料がリセントの社会保険料の滞納金として社会保険事務所に差し押さえられたうえ、2月27日付けでの解雇となった。

現在、破産手続きが終わるのを待ち、国の賃金立替払い制度を活用して、未払い賃金(80%支給)請求の準備中。

あすなる

2009年
4月
特別号

沖電気の職場を明るくする会 (OAK)

東京都港区三田3-2-20 TEL 03-3455-6006

<http://oak47-02.web.infoseek.co.jp>

職場新聞「あすなる」は沖電気と関連企業ではたらく人々が「人間らしく働ける職場を」願って創られた「会」の機関紙です。